

# 資 料 集

# 奈良女子大学編

地(知)の拠点

## やまと共創郷育センター第1回セミナー 『奈良で輝く女性たち』

**日時** 平成28年6月28日(火)  
9・10時限(16:20-17:50)

**場所** S228(文学系S棟2階)

**定員:70名  
申込不要  
参加無料**

◆スケジュール◆

16:20-16:30 開講挨拶

16:30-17:00 「女性の輝き・活躍の促進に向けて」  
奈良県こども・女性局女性活躍推進課長 金剛 真紀 氏  
女性センター所長 上中 三恵 氏

17:00-17:30 「奈良発!『女を楽しくする新聞』の発行20年  
～女性の感性を生かせるフリーペーパー作り～」  
(株)ウーマンライフ新聞社  
取締役編集長 河本 敏江 氏

17:30-17:50 質疑応答

**定員  
25名**

『地域の第一線で働く女性の生の声を聞いてみませんか』

当センターでは、地域で活躍できる女性に育ってほしいとの願いを込めてセミナーを開催することになりました。  
将来に向け、視野が広がります。ぜひお気軽にご参加下さい!

主催:やまと共創郷育センター  
共催:男女共同参画推進機構  
学生支援室就職支援部門

お問合せ先:0742-20-3411  
coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp

『奈良で輝く女性たち』(2016.6.28.開催)

地(知)の拠点

奈良県下市町・奈良女子大学連携公開講座

## 『地域の将来を考えるために-人口と経済-』

**日時: 2016年7月16日(土) 10:30~12:00**

**場所: 下市町農村環境改善センター 2階 大会議室**

昨年5月の公開ワークショップ「地域を知らうー下市町の今とこれからー」では、下市町各区の人口の現状や、町外で暮らしているおさん方の意識、地域を知るための「集落点検法」などについてお話しし、ワークショップの形でみなさんと意見交換をしました。今年度は、下市町にご協力いただき、地域の将来をみつめながら学生の教育を行う「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を展開しています。本講座では、この事業の一環をご紹介しますとともに、時間軸に沿った人口の変化から見る各区分の特徴、県や大都市圏など地域外との人と経済のつながり、とくに移住の問題を考えます。それらをふまえて、地域の将来をお考えいただくためのポイントなどもご紹介したいと思います。

奈良女子大学 人文科学系人文社会学領域 教授 水垣 源太郎

【お問い合わせ】

■奈良県下市町役場地域づくり推進課  
■電話番号 0747-52-0001/FP 0747-68-9070  
(平日 9:00~17:00)

【下市町農村環境改善センター】

■住所: 〒630-0510  
奈良県葛野郡下市町大字下市 1 9 6 0  
■電話番号: 0747-52-0001  
■交通アクセス: 下市町駅から直線距離で2585m

参加ご希望の方は、お名前とご連絡先(可能な限り当日連絡の取れる携帯番号、または電話番号)を上記お申し込み欄までお送りいたします。雨天による開催中止は当日連絡いたします。申込後にお申し込み先へお電話いたします。

下市町  
・マスコットキャラクター  
・観光大使  
ごんたくん

主催:奈良県下市町・奈良女子大学やまと共創郷育センター  
共催:奈良女子大学社会連携センター

『地域の将来を考えるために-人口と経済-』(2016.7.1 開)

地(知)の拠点

## やまと共創郷育センター第2回セミナー 『奈良の世界遺産』

**日時** 平成28年7月26日(火)  
9・10時限(16:20-17:50)

**場所** S228(文学系S棟2階)

**定員:70名  
申込不要  
参加無料**

◆スケジュール◆

16:20-16:30 開講挨拶

16:30-17:00 「奈良の世界遺産について」  
奈良県地域振興部文化資源活用課  
調整員 小池 香津江 氏

17:00-17:30 「モノの観光からコト・ヒトの観光へ」  
奈良市観光協会  
専務理事 鷺見 哲男 氏

17:30-17:50 質疑応答

『人々を魅了する奈良の世界遺産について考えてみよう』

今回は、奈良の魅力を見直しできるセミナーを開催します。  
将来に向け、また1つ視野が広がります。ぜひお気軽にご参加下さい!

主催:やまと共創郷育センター  
共催:男女共同参画推進機構  
学生支援室就職支援部門

お問合せ先:0742-20-3411  
coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp

『奈良の世界遺産』(2016.7.26.開催)

地(知)の拠点

## 地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域を生かす 紀伊半島地域連携シンポジウム2016

**日時: 2016年8月6日(土) 13~15時**

**場所: 奈良女子大学文学系N棟202教室**

**定員  
120名  
参加無料  
申込不要**

国立大学の役割のひとつは、地方・地域と結びつき、現代社会に貢献することです。このシンポジウムを、紀伊半島の3県にある国立の3大学が集い、地方・地域の活性化に知恵を出し合い、地方・地域に学識知を還元する場にしたいと思います。

【プログラム】

ご挨拶 藤原素子(奈良女子大学副学長、やまと共創郷育センター長)  
司会進行 内田忠興(奈良女子大学学長補佐、社会連携センター長)

【報告1】『参加型地域活性化のためのホールシステムアプローチ』  
中川正(三福大学人文学部・教授)

【報告2】『地元学・地域学の系譜』  
内田忠興(奈良女子大学大学院人文科学系・教授)

【報告3】『オーストラリア・シドニーにおけるLGBTツーリズムの推進-自治体の役割に焦点を当てて-』  
吉田源代(和歌山大学観光学部・教授)

総合討議

主催:奈良女子大学やまと共創郷育センター  
共催:奈良女子大学社会連携センター  
奈良女子大学共生科学研究センター

■お問合せ先■  
0742-20-3411  
coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp  
やまと共創郷育センター支援室

『地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域を生かす』(2016.8.6.開催)

奈良女子大学やまと共創郷育センター第3回セミナー  
**未来の働くスタイル**

第一部  
今、女性の働くスタイルが大きく変わろうとしています。企業の中でもテレワークや再雇用が制度化され、国は女性起業家支援に大きな予算をつけています。専業主婦率全国1位の奈良県で、柔軟に働く仕組みと連携作りに取り組んでいるWomen's Future Centerの事例を紹介しながら、5年後、10年後の女性の働き方を紹介します。

第二部  
Future designというワークショップを通して、参加者一人一人が未来志向で働き方を考えます。自分では気づかなかった発見、自分の課題に気づき明日の一歩が変わるかも？

講師・ファシリテーター 築本順子(くりもときよこ)  
1970年奈良県生まれ。女性の働き方の研究で専攻。経営学博士。専攻で最先端の企業、産学連携で最先端の企業に在籍。産学連携で最先端の企業に在籍。産学連携で最先端の企業に在籍。産学連携で最先端の企業に在籍。

10月5日(水) 14:40~16:10  
場所: N101教室 (N棟の一階西)  
参加費: 無料  
事前申込み不要  
問合先: やまと共創郷育センター支援室  
Tel 0742-20-3989  
主催: 奈良女子大学やまと共創郷育センター  
共催: 奈良女子大学男女共同参画推進機構  
奈良女子大学学生支援室就職支援部門  
協力: 女性起業家応援プロジェクトLED関西事務局



『未来の働くスタイル』(2016.10.5.開催)

やまと共創郷育センター第4回セミナー  
**「奈良クラブの活動とその歩み」  
— 奈良にJリーグクラブを—**

主催: 奈良女子大学やまと共創郷育センター  
共催: 奈良女子大学男女共同参画推進機構、奈良女子大学学生支援室就職支援部門  
協力: NPO法人奈良クラブ

講師 矢部次郎 奈良クラブ理事長兼GM  
奈良県初のJリーグを目指すサッカークラブ「奈良クラブ」。去年にはクラブ発足10年目を迎えます。奈良クラブ理事長兼GMを務める矢部次郎氏がクラブ発足当初から今日までの歩みを振り返り、奈良にJリーグクラブを作ろうと志した経緯や、奈良県全域を拠点にサッカーを通じて人材育成、社会貢献、総合型スポーツクラブとして行っている様々な活動など、奈良クラブが描くクラブづくりについてお話しします。  
なぜ今、奈良でJリーグを目指すのか、Jリーグクラブがもたらす効果、必要性、それには今何をすべきか。奈良の地で「勝ち負けより大切なものがある。」をコンセプトに、町の誇り、子どもたちの憧れとなるクラブづくり、地域創生に繋げる熱い思いを語ります。

日時 10月27日(木)14:40~16:10  
授業科目「健康・スポーツ科学」内  
会場 S235教室(総合研究棟文学系S棟2階)  
※事前申込み不要

【問合先】 奈良女子大学やまと共創郷育センター支援室  
Tel 0742-20-3989

NPO法人 奈良クラブ  
NPO-0144 奈良県奈良市東大馬場111-2-1 伊弉諾七楼5号内  
Tel 0742-93-3815 http://ncrc.kbp.jp

『奈良クラブの活動とその歩み』(2016.10.27 開催)

奈良県内企業 **魅力** 発見セミナー  
平成28年 11月19日(土) 13:00~17:00  
会場: 奈良女子大学 第1体育館 (集合: 12:00 N202教室 ガイダンス実施)


奈良県内の優良企業を知るチャンス!  
将来の働き方、生き方を考えてみよう!

友達と一緒に気軽に参加OK

OGの話が聞ける  
参加優良企業約20社  
服装自由  
「奈良しごとセンター」の相談窓口あり

●本学学生を中心とする奈良県立大学、奈良工業高等専門学校との合同セミナーです。  
●参加企業別のブース(1企業1テーブル)を設けます。各企業の担当者とは人数で接することが出来るチャンスです! OGが来てくれる企業もたくさんあります。  
●奈良県は健康・福祉に携わる人の割合が高く、製造業では、繊維・プラスチック・食品加工が盛ん。高い技術をもつオンリーワン企業も多く、業界の動向、方向性、仕事内容、求める人間像等について直接聞くことができ、業界研究と仕事理解の重要な材料となります。

※資料の準備の関係上、就職係カウンター受付でお申込みください。



『奈良県内企業魅力発見セミナー』(2016.11.19.開催)

主催 奈良女子大学 消費者問題研究会 (BEACS)  
**奈良女子大生と学ぶ! 消費生活講座**

何でも高く買い取りますよ  
無料ですよ!  
絶対もうかりますよ  
今より安くなりますよ  
今日だけの特別サービスあなただけに

奈良女子大生の消費生活啓発サークルメンバーが、寸劇や景品付きクイズで、下市町の皆さんと楽しく消費者問題を学びます。

- ご挨拶とお話 大塚 浩(奈良女子大学 生活文化学科 准教授)
- 寸劇で学ぶ消費生活トラブル  
学生メンバーと消費生活センター相談員による寸劇で生活上のトラブルについて学びます。
- 消費者カクイズに挑戦!  
景品付きクイズで楽しく消費者問題について学びます。
- 質疑・相談コーナー  
奈良大生と消費者トラブルについて相談していただきます

イラスト: 奈良女子大学消費者問題研究会 (BEACS)

12月3日(土) 13:30-15:30  
下市観光文化センター2階 研修室

定員50名 参加無料 申し込み不要 お誘いあわせのうえぜひご参加を!  
共催 下市町 協賛 奈良女子大学やまと共創郷育センター  
協力 奈良県消費生活センター

お問い合わせ先 下市町役場 住民保護課 Tel: 0747-52-0001 IP電話: 0747-68-9063

『奈良女子大生と学ぶ! 消費生活講座』(2016.12.3.開催)

# 自分を 活かす 生き方・ 働き方

女性も男性も  
元気になる!

平成28年12月17日(土)  
13:30~16:00(13:00開場)

会場 奈良女子大学記念館講堂  
(奈良市北魚屋西町)

定員 250名(先着順)

第1部  
基調講演

女性の活躍 ~あなたに贈るメッセージ~

入場無料  
託児あり

講師 村木 厚子氏  
(前厚生労働事務次官)



プロフィール  
1955年高知県生まれ、1978年高知大学卒業。同年  
労働省(現厚生労働省)入省。女性政策、障がい者政  
策などに携わり、2008年雇用均等・児童家庭局長、  
2012年社会・援護局長などを歴任。2013年7月か  
ら2015年10月まで厚生労働事務次官。

第2部  
パネル  
ディス  
カッション

『男女がともに支える暮らしやすい奈良県』を目指して  
~男女の意識を変えるため、何が必要か~

コーディネーター

パネリスト



吉田 昌子氏  
(奈良県男女共働き推進協議会会長)



井上 京子氏  
(奈良のママが仕事をつくる会代表)



川口 卓氏  
(奈良大学教授)



舟橋 正枝氏  
(産業カウンセラー)

参加申し込み▶詳しくは裏面をご覧ください。【主催】奈良県 【共催】国立大学法人 奈良女子大学

『自分を活かす生き方・働き方』(2016.12.17.開催)

奈良高専 IOTセミナーを開催

奈良高専は、IOTセミナーを5月13日にクリエーション・コア東大阪 同27日に奈良県産業振興総合センターイベントホールでそれぞれ開催した。産学官金連携事業の一環で企業等を対象に、生産管理、品質管理、営業企画等の分野で経営効率化が期待されているIOTの啓蒙普及活動の一環として実施した。大阪会場で90名、奈良会場で88名の合計178名の企業関係者が参加した。



講演する土井准教授

近畿経済産業局地域経済情報政策課の石原康行課長によるIOTの事例や今後の展望に関する講演、同校電気工学科の土井滋貴准教授によるIOT技術の活用に関する講演、(株)SKAアナリティクスの足立悠氏によるIOTデータ解析に関する講演がそれぞれ行われた。

参加者が熱心に耳を傾けるなか、特に、石原課長の「IOT技術により道具が人に対して『賢く』『親切』になる」とのポイントである」との言葉に深い感銘を受けていた。2会場でも実施した同セミナーのアンケートで高い評価を受けたが、今後、IOTの実例紹介やセキュリティに関する講演を組み入れ、より企業ニーズにあった形での実施を検討していきたいと担当者は語っていた。



石原課長の講演に聞き入る参加者

奈良高専の地方創生の取組がケーブルテレビで紹介

奈良高専は、平成27年度からCOC+事業(主幹校・奈良女子大学)に参加し、奈良県及び奈良県下自治体、企業等と地方創生の取組を進めているが、その一環で奈良県山添村や、吉野小水力利用推進協議会と協働による水車発電機設置に向けて取り組んでいる。この取組が、去る9月6日に近鉄ケーブルネットワークの番組で紹介された。奈良高専電気工学科池田助教、秋月COC+コーディネーターが出演し、取組方への抱負、技術的な課題などについて明らかに説明した。奈良高専の技術シーズが、地方創生の一翼を担うことで、特に過疎地域である奈良県南部東部の活性化に役立てることがうれしく池田助教は結んだ。



小水力発電を説明する池田助教



COC+事業の概要説明を行う秋月CD

《文教速報 平成28年10月7日掲載》

《文教速報 平成28年6月10日掲載》

地域創生授業で 奈良高専「社会技術特論」を講義

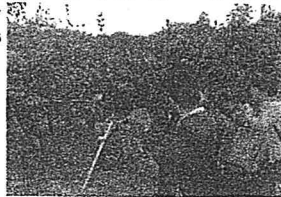
奈良高専では、平成29年度の専攻科改組に伴うカリキュラム改訂を前に、今年度、専攻科2年生の従来からある授業科目「社会技術特論」(担当教員・藤田直幸教授、谷口幸典准教授、顯谷智也子COC+特任教授)で地域創生授業を実施している。

この授業は、奈良県が抱える重点課題を技術者の観点から解決できるリーダーの人材育成のために、専門分野の異なる学科教員や外部講師が講義や演習等を行うオムニバス形式で、全15回にわたって進められている。今回は、奈良県吉野郡下市町の産業「林業」「農業」「園芸」の三つの産業が抱える問題をテーマとして取り上げた。さらに、下市町の事前調査、現地調査を行い、学生自身が問題を発見、その問題に対して課題を設定し、技術者の立場からの課題解決策を提案する試みが実施されている。

1週目は9月30日に行われ、学生はグループワークにより下市町について事前調査を行い、マインドマップと言う形に調査内容をまとめた。また、10月14日には下市町への現地調査のために学外研修を実施。専攻科2年生が各学科の枠を超えて、三つの産業のテーマに対して、各2チームの合計6チームに編成され、フィールドワークやレクリエーションを体験した。

中間発表会には下市町関係者を招き、最終発表会には行政、大学関係者、地域企業などを招き、コメントを聞くことになっている。地方創生とは何か、また地方創生に対して技術者が果たすべき役割とその重要性とは何か、を学生自身が考え取り組むアクティブラーニング形式の授業を通して、技術者が社会との関わりをなかで、課題設定能力・課題解決提案能力を身につけ、実践できるように今後も授業が進められる予定だ。

現地調査「商業」チーム



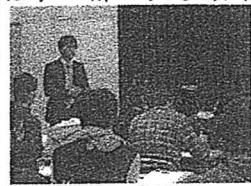
現地調査「農業」チーム



現地調査「林業」チーム

《文教速報 平成28年11月11日掲載》

奈良高専が地域理解教育の一環で  
信金と協力し「COC+政治・経済」を開講



担当教員の竹原講師

奈良高専では、平成29年度から地域創生マインド養成教育プログラムが実施される。奈良県が抱える重点課題を解決できるリーダーの人材育成を目的とするもので、今年度は本科3年生5学科共通の授業として、『COC+政治・経済』（担当教員：竹原信也講師）を奈良中央信用金庫（本社：奈良県磯城郡田原本町）と協力し、10月4日から行っている。各学科全8回にわたって進められるアクティブラーニング形式の授業では、1回目に奈良中央信用金庫による特別講義が行われ、学生は奈良県経済の課題への理解を深めた。

2回目・3回目で、学生は1班から5または10班に分かれ、SWOT分析により、奈良県経済の現状を分析し、活性化のための事業における商品・サービスのアイデアを考えた。

4回目では、商品・サービスのアイデアを実際に事業計画書として作成し、5回目には前半45分で、「奈良県内企業による特別講義」が行われ、後半45分で学生が奈良県内企業と奈良中央信金にプレゼンテーションし、評価してもらった。

この「奈良県企業による特別講義」では、

県内の「卸売」「プラスチック製品製造」「機械製造」「販売」「精製機製造」「商社」の多岐にわたる業種の代表者を1学科に1企業ずつ特別講師として招へい。事業内容や業界動向、抱えている課題などを直接話してもらったことで、地元企業の魅力を知るとともに、地域への理解を深め、地域課題の解決について考える講義となった。



奈良中央信金

5回目までの講義を終えて竹原講師は、「高専はエンジンニアを育てる学校です。企業の方が直接体験をお話し頂くことで、学生にとっては、実社会と関っていくことのできる、とても意義深い機会です。このような形式の授業を通じて奈良県への愛着とベンチャー・マイインドが学生に少しでも植わることができればと思います」と述べた。



県内企業

《文教速報 平成28年11月30日掲載》

県内企業による講義を地元紙が紹介（奈良高専）

奈良高専の地方創生推進事業における地域理解教育の一環として、本科3年生5学科共通の講義として、『COC+政治・経済』（担当教員：竹原信也講師）が奈良中央信用金庫（本社：奈良県磯城郡田原本町）との協力で、10月4日から各学科全8回にわたって進められている。

11月8日に電気工学科で行われた同講義としては5回目となる「奈良県企業による特別講義」のようすが、11月9日付の奈良新聞朝刊で紹介された。

インタビュを受けた学生は、前半45分の備品川工業所（本社：奈良県磯城郡田原本町）の特別講義を聞いた感想を述べるとともに、後半45分の同社と同金庫の担当者にプレゼンテーションした際の評価などについて感想を語った。

竹原講師は、「地域の課題解決を図る取り組みとして、グループワークで考えた商品・サービスなどのアイデアを自ら事業計画書として作成し、プレゼンテーションすることで、普段の授業では得られない意義深いものとなりました」と講義の意義を語り、「厳しい助言も頂きましたが、学生の今後の糧となる貴重な機会となりました」と結んだ。



講義を行う竹原講師



インタビュを受ける学生

《文教速報 平成28年11月25日掲載》

奈良高専教員と学生が農協協研修会で講演

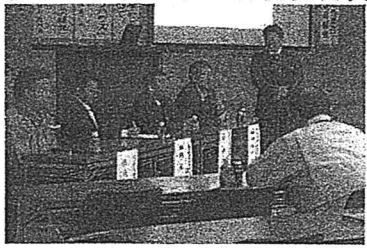
奈良高専准教授と専攻科生が11月29日に奈良県農協協研修会本店で開催された『第3回TAC(営農販売専任・営農販売)担当者研修会』の第2部で、同校の農業分野の取り組みに関する講演を行った。講演したのは機械工学科の榎真一准教授と専攻科機械制御工学専攻2年の学生(指導教員:飯田賢一電子制御工学科教授)。

地方創生推進(COC+)事業の協働機関である奈良県農協からの要請で、奈良県下に設置されている19カ所の経済センターに所属する地域農業の担い手に出向くJIA担当者(TAC)を対象とした研修会で、現在、同校が学内横断的に組織化した「農工連携クラスター」で取り組んでいるテーマを披露した。はじめに、身吉専攻員から地方創生推進(COC+)事業の取り組み紹介が行われ、「地域創生には、産学官金が一体となった連携が

必要」と、農業分野での取り組みについて、今後さらなる連携を深めることを求めた。続いて、機械制御専攻2年生から「農業の圃場環境センシングシステムの開発」に関して発表され、日本の就農者人口の減少・就農者の高齢化問題や新規参入者が抱える問題を農作業の軽労化・生産性の向上や技術支援の面から研究アプローチし、①農作物自動運搬ロボット・②環境センシングロボット(屋内)・③環境センシングロボット(屋外)の三つを柱に解決策の提案をし、実際の評価実験等の映像を用いて説明した。

統一して、榎准教授が「災害に強い高剛性パイプハウス」について発表。パイプハウスの簡易的な構造の二面性(農業従事者自身で施工できる点と強度が十分でない点)を挙げ、災害の少ない奈良県で、実際の台風と積雪によるパイプハウスの倒壊被害の写真を用いて片側に偏った荷重がかかり倒壊している現状を伝えた。そのうえで、材料コストや組立性を保持した新構造パイプハウスを提案し、三次元構造解析を行うことで、台風や積雪による倒壊対策に有効な構造であることを確認した結果を説明した。

者から直接質問をする場面もみられ、発表に対する関心の表れを目標にした。農業を取り巻く環境が日々刻々と変化加した約50名の農業にかける思いを感じる良い機会となった。



活発に意見が交わされた質疑応答

《文教速報 平成 28 年 12 月 12 日掲載》

奈良高専でキャリアデザインセミナー

奈良高専は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の雇用政策の一環として、キャリア教育、地元企業への雇用推進に取り組んでいる。今年度は、情報工学科4年生と専攻科生(基礎システム学支講者)を対象として、10月20日・11月24日・12月8日の3日間に、併メンバーズ(本社:東京都中央区晴海)取締役CFO兼業務執行役員の小峰正仁氏を招き、「社会人基礎力を高める」をテーマに、キャリアデザインセミナーを実施した。クラス全体で進路選択への意識を高めることを目的として、①楽しむ②積極的に参加する③人の意見を否定しない④の三つをセミナーの心がけとして取り組んだ。



「社会人基礎力を高める」をテーマにしたキャリアデザインセミナーの様子(情報工学科専攻科生・山口智浩准教授)

学生は、個人ワークとグループワークを通して、他者からの刺激を受け、さまざまな観点から自分を見つめ、自己分析を行った。さらに、今後のキャリア開発のポイントを描くこととなった。この特別講義で、併メンバーズの会社紹介や講師を通して職場体験活動やインターンシップ等と同様に、社会人基礎力を高めることとなった。主権者である情報工学科の山口智浩教授から「この講義を通じて、企業の立場からの貴重なお話を頂き、学生の皆さんの人生をハンズオンして行く上で、とても沢山の刺激を頂きました」とコメントがあった。いずれもセミナー終了後に、意見交換会が行われ、キャリア教育の重要性を学生だけでなく、教職員共々感じることができ、今後に向けた取り組みを含め有意義な場となった。



セミナー後の意見交換会

《文教速報 平成 29 年 1 月 13 日掲載》

地域理解教育の一環で

奈良高専「COCC十政治・経済」が終了

奈良高専では、奈良県が抱える重要課題を解決できるリーダーの人材育成の目的に、奈良中央信用金庫（本社・奈良県磯城郡田原本町）の協力を得て取り組んだ「COCC十政治・経済」担当教員…



担当教員の竹原講師



第5回・県内企業による特別講義

竹原信也講師の授業が、去る12月15日に無事終了した。本科3年生5学科共通で全8回にわたって行われ、1回目では「奈良経済の課題」について奈良中央信用金庫による特別講義が行われ、奈良県の現状を学んだ。また、奈良県の経済統計データをを用いて、SWOT分析を行い奈良経済の強みと弱みを把握。学生はグループワークにより、奈良県を活性化させるための商品・サービスを考え、アイデアあふれる事業計画書を作成した。

5回目では、奈良県企業に事業計画書をもってもらい、アドバイスが寄せられた。得た助言を踏まえ、プレゼンテーションの準備をし、7回目にグループ発表を行い、奈良中央信用金庫が評価。さらに8回目で、これまでに振り返り、WEBによるアンケート記入調査等を行った。

この授業を通して、工学的知識をベースに経済の基礎知識を身に付ける試みが行われ、将来に必要なコミュニケーションや問題解決スキルを体験することができた。グローバル化の時代にあえてグローバル化に着目し、実際に事業計画書を作成することにより、地域発展の重要性を理解した。問題解決や新しい価値の創造に積極的に取り組むベンチャーマインドの必要性を実感。学生にとって、奈良県での生活や仕事に愛着を感じる良い機会となった。

第7回・グループ発表で奈良県金から評価を受ける

最後に竹原講師は、その地域の「人も知り、社会も知り、活躍できるエンジニアを目指してください」と述べ、「もし、皆さんが将来、起業をしたいと思った時は、ぜひ奈良県で活躍してください」と結んだ。

《文教速報 平成29年1月16日掲載》

奈良高専、県と協働で再雇用の仕組み構築

奈良高専は、平成27度から採択されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（主幹校：奈良女子大学）」の一環として、奈良県と協働で奈良高専のOB・OGの地元再就職を支援するための専用ホームページを作成した。

奈良高専卒業生は一般的に県外企業への就職が多い。一方で、家庭の事情等により奈良県に戻りたいケースがあることも、子育てが一段落したOGが就労復帰を希望するケースなどがあることから、地元企業への再就職をスムーズに進めるために、相談の第一歩を踏み出す上でわかりやすい入口をホームページ上に設けた。

再就職の相談窓口へ、いかに気軽に誘導できるかが求められており、その要望を奈良県と政策協議を重ねた結果、実現した。

奈良高専の公式ホームページからアクセスするとリンク先の奈良県の特設ページ「奈良高専卒業生の再就職支援」に写真に飛びよるようになっており、そこから電話により面談日を決定すると具体的な就職相談ができる。その後、奈良県がその人の希望を踏まえ

県内企業を紹介する仕組みとなっている。

「有能な人材が一人でも多く地元企業に就職して活躍してほしい」と、奈良高専COCC十実施本部長補佐を務める機械工学科の谷口幸典准教授は述べ、「奈良高専で培った技術力で、奈良県下の産業を発展させてほしい」と、地域創生研究センター長の早川恭弘電子制御工学科教授は、再就職支援に期待を込めて語った。

《文教速報 平成29年2月1日掲載》



吉野郡下市町と協力し  
奈良高専が社会技術特論の  
最終提案発表会

奈良高専では去る1月13日、専攻科2年生を対象とした『社会技術特論』（担当教員：藤田直幸教授・谷口幸典准教授・顯谷智也子COCC十特任教授）で、最終提案発表会が行われた。

これまでの事前調査や現地調査、中間発表会を踏まえ、奈良県吉野郡下市町の『林業』『農業』『商業』の各産業が抱える問題に対する解決策の提案を発表テーマとして、各産業2班ずつ合計6班の学生が、厳密なタイム管理のもと発表した。さらに、参加した下市町役場の職員や



林業の発表

地方創生推進事業（COCC十）協働機関の奈良女大教授らから質疑やコメントを得た。

林業 一班は、地場産業である吉野杉を素材とする割り箸の生産効率を向上させるために、「木目の平行認識」と「着型」発成型という解決策により、手作りの風合いを損なわずにブランドを維持した機械化を提案した。

二班は、質の良い木材を販売するために「木の買い付け」段階で、おこなう金銭的な無駄を解消するための解決策として、①X線十枝打ちロボット、②超音波十枝打ちロボット、③電気パルス十枝打ちロボットの三つの検査機器を用いて、原木の腐敗や割れ、空洞などの内部状態を調査することと、木材の品質を非破壊検査で内部判定することを提案した。

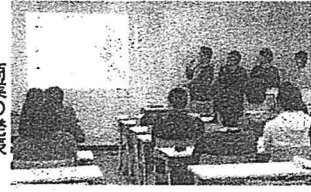
農業 二班とも、に獣害対策に取り組み、一班は「集飲エリア」を設置し、エリア内に誘引物質である餌や獣の糞、そのフェロモン等を用意、入りやす

く誘い込み、柵と網を用いて、出にくく逃がさない構造の罠を仕掛ける。畑以上に魅力的な場所をつくり、畑に獣を近づけない。他の村に行かせないことを解決策とした。

農業の発表

商業 一班は、人がいないことに着目し、観光地として人を呼び込むために「断食ツアー」を提案。その理由として、下市町の特産物である梅や葛が断食に適していること、また、断食による心理的ストレスをヒノキや杉から抽出したオイルやアロマを使ったオリジナル商品、関西圏に「断食ツアー」を行って、るところが少なく、ことから解決策とした。

二班は、森林資源が豊富であることや、職人として栄えた町であることを活かした上で、「木工×アート」の町を提案した。職人のたまごともいえる芸術・美術・工業系の学生に木材を安価もしくは無料で提供し、参加を促進、製作品と過程を下市町の財産にすることと、道徳橋といったまち自体をテーマにした観光地として、町おこしによる活性化を提案した。



商業の発表

学生はこの授業を通して、『林業』『農業』『商業』を次の世代に伝承することと、例えば、職人の目で、十年かかる自利きの技を科学・工学的技術が担うことで、地域や日本文化を守ることにつながることを知った。

担当教員の藤田教授は、「地方創生とは何か、また地方創生に対して技術者が果たすべき役割とその重要性とは何かを考えることと、下市町を身近に感じる意義深いものとなった」と、結んだ。

《文教速報 平成 29 年 2 月 6 日掲載》

奈良高専「地域イノベーション」を新設

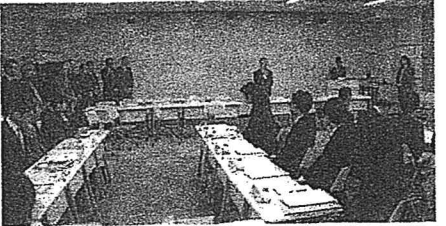
奈良高専は、これまで奈良県地域の産学官金連携拠点としての役割を担い、深い人的ネットワークと技術交流ネットワークを構築してきた。この産学官連携活動の一環として、さらに関西地域における産業界の発展に貢献するため、奈良高専地域イノベーションコンソーシアム（技術振興会）を去る2月9日付で新設した。

このコンソーシアムは産学官金連携体制をさらに向上させ、知的資源の創造と地域経済の活性化を目指すもの。奈良高専が主体となつて会費を募り、企業等の学外者を含む形で運営組織を構成する。

さらに、実施事業に対して奈良高専がインシアティブを発揮し、全会員と密なコミュニケーションを図り、相互に良好な関係を築くための仕組みとなっている。

同10日には、奈良高専OB・OGが勤める県内企業様&奈良高専交流会を開催し、産学交流室長の早川恭弘電子制御工学科教授から、参加企業に対して同コンソーシアムの案内が行われた。

また、挨拶のなかで早川教授は、「奈良高専地域イノベーションコンソーシアムが、地域創生や広く関西圏の産業界の発展に資するため頑張っていきたい」と、抱負を語った。写真。



産学交流室長の早川恭弘電子制御工学科教授から、参加企業に対して同コンソーシアムの案内が行われた。

《文教速報 平成 29 年 3 月 6 日掲載》

# 地域に有用な人材養成へ

## 奈高専と 県内企業が特別講義

奈良工業高等専門学校(知)の拠点大学による校は8日、奈良中央信用金庫(田原本町)との一環で、平成27年度連携した県内企業による特別講義を、大和郡山田町の同校で行った。

文部科学省の「地域」の求める人材の養成

により、地方創生の中

心となる「ひと」を地

方に集積することを目

的としている。

同事業での政治経済

の授業は3年生を対象

に計8回実施。このほ

か、県内企業5社が協

力する特別講義が今月

上旬にも講義あり、8

日は広陵化学工業(広陵町)と、品川工業所(田原本町)の関係者が話した。

食品製造機械を製造、販売する「品川工業所」の講義には、電気工学科の学生44人が出席。同社の概要とともに技術担当者から開発時の苦労話などを聞いた。

その後、地域の課題を解決を図る取り組みとして、班別に考えた商品や事業のアイデアを同社と同金庫の担当者にプレゼンテーション。助言を受けた。

同科3年、加太文絵さんは4人のメンバーと、奈良に日本の中心的な博物館をつくることを提案。助言をもらい、自分たちの計画の甘さを理解できた。地元について知る機会にもなったと話した。



商品や事業のアイデアを説明する学生11日、大和郡山田町の奈良高専

文部科学省の「地域」の求める人材の養成

により、地方創生の中

心となる「ひと」を地

方に集積することを目

的としている。

同事業での政治経済

の授業は3年生を対象

に計8回実施。このほ

か、県内企業5社が協

力する特別講義が今月

上旬にも講義あり、8

日は広陵化学工業(広

陵町)と、品川工業所

(田原本町)の関係者

が話した。

食品製造機械を製

造、販売する「品川工

業所」の講義には、電

気工学科の学生44人が

出席。同社の概要と

ともに技術担当者から開

発時の苦労話などを聞

いた。

その後、地域の課題

を解決を図る取り組み

として、班別に考えた商

品や事業のアイデアを

同社と同金庫の担当者

にプレゼンテーション。

助言を受けた。

同科3年、加太文絵

さんは4人のメンバー

と、奈良に日本の中心

的な博物館をつくるこ

とを提案。助言をもら

い、自分たちの計画の

甘さを理解できた。地

元について知る機会に

もなったと話した。